

2015 年 10 月吉日

ご利用会員の皆様

特定非営利活動法人フローレンス

代表理事 駒崎弘樹

ご利用方法変更に伴うご挨拶

日頃よりフローレンスの病児保育に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2015 年は「病児保育」を取り巻く環境に大きな変化がありました。フローレンスの病児保育がモデルとなった漫画「37.5°Cの涙」が電子書籍などで話題となり、7 月にはその漫画を原作とした連続ドラマ「37.5°Cの涙」が TBS 系列で放映されました。また、大手新聞社の記事で「病児保育」がテーマとして取り上げられるなど、仕事と育児の両立における「病児保育」という問題が、ようやく社会的な課題として着目されつつあります。

そのような中、現在フローレンスの病児保育は多くの入会希望者が殺到しておりますが、新規入会を一時停止しております。会員の急増による病児保育の質低下はございませんのでご安心ください。「病児保育」とは、会員の皆様の大切なお子さんの命をお預かりすることです。安心・安全を徹底するフローレンスの病児保育の質と、当日朝 8 時までのご予約に 100%対応をする体制は引き続き堅持してまいります。

また、この度会員の皆様から多数ご要望をいただきました点について、ご要望に添えるようにご利用方法の変更にも取り組むことになりました。

<多数いただいている主なご要望>

- ・毎月 1 回めの病児保育無料枠について、仕事帰りで調整が難しい 17 時 30 分～18 時 30 分を無料にしてほしい。
- ・夜中や明け方に子どもの体調が急変することがある。当日の依頼でも、もう少し早く来てほしい。

働く親御さんにとって、お子さんが熱を出している時こそ一番大変な時です。残念なことに今の日本は、まだまだ親が一番大変なときに「子どもが病気なら親がみるべき」と突き放す社会です。でも、「親が大変な時こそ社会で助けよう」「こどもを社会で育てよう」、そういう未来こそが目指すべき社会だと私達フローレンスは考えます。そして、その新しい時代の象徴こそが「病児保育」であると信じています。

現在、新規入会の方を少しでも早く受け入れられるよう体制強化に努めております。

これからも、フローレンスは働く親御さんやお子さんたちにとって「病児保育」が当然のインフラになり、社会全体で子育てを行う未来を目指して活動してまいります。

フローレンス代表理事 駒崎弘樹